

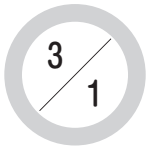
冬の寒さも へっちやら

カルルス温泉冬まつり

3月1日(日)、カルルス温泉サンライバスキー場で『カルルス温泉冬まつり』（同実行委員会主催）が開催され、多くの家族連れやスキーヤーたちでにぎわいを見せました。

『雪中みかん拾い』では、子どもから大人まで、参加者が勢いよく走りだし、雪上にまかれたみかんとジャガイモを拾い集めたほか、100組が参加した『親子ボブスレー大会』では、スムーズにゴールする親子や、ソリがなかなか進まず泣き出す子どもに、会場は歓声と笑いに包まれるなど、多彩な催しが繰り広げられました。

午後には、登別漁港で水揚げされた鮭を使った『石狩鍋』と、市内で捕獲したエゾシカの肉を使った『ディアシチュー』が振る舞われ、参加者は、『登別産』の食材を味わいながら体を温め、楽しい冬のひとときを過ごしました。



▲少年スキー大会の表彰式の様子



▲お父さんと『ホールインワン』に挑戦



▲『親子ボブスレー大会』で1位を目指す親子



▲講師（左）の実演を間近で見る参加者

市民活動の魅力 を体験

市民活動交流フェスタ2015

2月22日(日)、市民活動センターの利用団体が活動の魅力を伝える『市民活動交流フェスタ2015』（市民活動センター主催）が市民会館で行われました。21団体が展示やステージ発表で普段の活動の成果を披露し、訪れた方の目を楽しませました。

ひよっこ踊りや手話による歌などのステージ発表では大きな拍手が起こり、展示コーナーでは実際に書道や絵手紙、手芸などの作品づくりができ、訪れた方が実際の体験を通し、活動の魅力に触れました。



▲書道の体験をする参加者

調理法で アレンジいろいろ

エゾシカ肉料理講習会

2月26日(日)、市民会館で、『エゾシカ肉料理講習会』（市主催）を開催しました。

この講習会は、市内で捕獲したエゾシカの肉の有効活用を促進するため、道内で活躍するフードプロデューサーの青山則靖さんを講師に迎え、市内の飲食店で調理に従事する方を対象に行ったもので、17人が参加しました。

参加者の名畑泰昌さんは、「下処理の仕方や調理法で、味や軟らかさなどに違いが分かることになりました。今後のメニュー提案のヒントになればと思います」と話していました。



市民のメッセージを受けまちを応援

3 / 2

「北海道179市町村応援大使プロジェクト」決起集会

3月2日(月)、札幌市で、『北海道179市町村応援大使』に就任した北海道日本ハムファイターズの選手の皆さんと、ことしの対象市町村に選ばれた各市町村の代表者が一堂に会し、『北海道179市町村応援大使プロジェクト』決起集会』が開催されました。

市は、2015年登別市応援大使の中島卓也選手と岡大海選手に市民からのメッセージ約30通を届けたほか、登別市を紹介するときに活用してもらえるよう登別市PRカードを手渡し、登別市の盛り上げに協力をお願いしました。



▲PRカードを手にする中島選手（右）と岡選手



▲意見を出し合う日本工学院北海道専門学校（左2人）と市職員

LINEスタンプで登別のPRを

『登夢くん』LINEスタンプ制作

市は、市のPRキャラクター『登夢くん』を使用した、スマートフォン向け無料通信アプリ『LINE』のスタンプ制作を進めています。

制作に取り組むのは、日本工学院北海道専門学校（高田瑠奈さんと羽立愛里さん、市の若手職員3人で、『登別らしさ』や『まちのPR』を意識しながら、親しみを持ってもらえるようなデザインにしよう」と、議論を重ねています。スタンプは、夏ごろまでに完成させ、販売を行う予定です。

高田さんと羽立さんは、「卒業制作などでスタンプを作った経験を生かせれば」と話してくれました。

スイスの多彩な魅力を紹介

3 / 19

国際理解講座

3月19日(木)、市民会館で、ことし1月にスイスから登別に来た宣教師のフィギリスタ・サムエルさんを講師に、『国際理解講座』（市主催）を開催しました。

『チーズやチョコレートだけではないスイス』をテーマに行われた講話では、スイスの人口や気候、暮らしなどをさまざまな視点から紹介。

「5カ国に囲まれており、それぞれの国の文化が融合して1つの国を形成しているスイスは、生活環境にとどまらず、地形や気候も地域によって異なります。皆さんも、チーズやチョコレートだけではないスイスに興味を持ってくださると嬉しいです」と話していました。



▲フィギリスタさんの話でスイスへの理解を深める参加者